

サカタ二友の会ニュース

とんからりん

幸福社と 幸喜高齢者



後期高齢者を幸喜高齢者と読みかえて使うようにしているが私がつくった言葉ではない。長野県の酒蔵のお方が「とんからりん」をご覧になって生きていた自分を「幸喜」と思えばとご進言戴いた。以後、自己紹介する場合それを使わせていただいている。最大の理由は「後期」ラスト エンドより前向き字面も良い感じがするからだ。

幾分(多分に)「新し物好きな」傾向があった。ツイッターを使い出した。いまどうしてる」の枠に「140字」しか言いたいことの書き込みが出ないが「メール」より使いやすく便利な道具だ。そのツイッターで私が「フォロワー」ツイッター友(連)している方の中に、京都在住で「難病と闘う患者とその家族を支援するサポートハウスを運営」など多角的なボランティア活動されて居る方があり、ブログ「高福祉より幸福社」と言っています。すなわち、満足したい、満たされたのは、「心」であって、お財布や身体ではないのです。理想論だけを連呼するつもりはありませんが、先ずは、理想を掲げることが大切だとも思いますが、と書いてあった。そう、単に「高福祉」と書いてあると政治家の発言が刷り込まれたのか常に「高負担」が頭に浮かぶ。最近、政治家の世界で「中福祉：中負担」と言う造語が有るようだ。彼らは現状は「低福祉低負担」と認識しているのだ。「低福祉」はその通りだが現状は「低負担」とは思えない。負担は何も金銭だけでは無い。高齢者を別枠の「医療保険制度」に分別、老人たちが他の世代に負担をかけているように感じる扱いそのものが老人達の

投稿では発行者
株式会社サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・西谷義郎
yosi rou@sosake.jp

第64回 朝粥食べておしゃべり会報告

4/18 毎月第3日曜日定例・朝粥を食べる前の催し(9時~9時40分)
今回は特別に「楽々ホール」でDR小中島歯科医 バイオリン・ピアノ、チェロ・えりちゃん(ピアノ)演奏会」でした。メンデルスゾーン・リスト・早春賦・花などの曲。日本の歌になると元乙女たちがたまたまコーラスになりました。声を出すことは良いこと。明るいお顔でした。



(会場写真)

精神的な高負担になっていく。先輩老人たちは少数派であるにも関わらず威厳があり、若い世代も尊敬や労りの心で接している。今は老人は多数派ぞ！。遠慮なく長く元気で、孫たち共たたちのために幸福社社会を生きても見るため頑張ろう！と言いたい。

姉と弟

「先日、妻と自宅近所を散歩中、10人程度の女子児童の集団に出くわした。そのうちの2人の会話が耳に入ってきた。
上級生「何組？」
下級生「1組」
上級生「コウタつてあるやろ」
下級生「うん」
上級生「アホやろ」
下級生「すっごいアホや」
上級生「弟やねん」
一瞬、間があったが、途切れず続く

上級生「どんなアホ、高齡の両親のために、何か動いてくれている。下級生「給食の時、変なことがばっかりしてはされなかったと思うが、姉とは取っ組み合いのけんかもした。昔を懐かし

「今度殴つとくわ」
こんな日常会話にも、ちゃんと落ちがあり、噴き出しそうになった。
この上級生の口調には弟への愛情も感じられ、児童の集団が私たちと別方向に行った後も、ほのぼのとした気分になった。
私にも姉がいる。山口県の実家の近くに住む。

この「姉と弟」の文【内は毎日新聞2006年6月3日 からと記入され、あるブログに掲載されていました。あなた様は、どう想像される?」
読むとその情景が目に浮かび、上級生(姉)と弟のその後が気になりました。
「以下ヨシちゃん加筆」
以後は貴方が上級生(姉)です。どうして、どう言いますか。
「喉元過ぎると熱さを忘れる」はアカンやん。
「熱ものに懲りてなますをふく」もいけマヘン。
世の中は難しいもんどす。

ーどんつきー

暑さ寒さも彼岸まで。石油ストーブ片付けたのに、寒い春です。その影響でか花粉が飛ばず「マスク」が売れません。

世界の彼方此方で地震が続く大被害。火山が噴火してジェット機が飛ばないと大騒ぎ。騒ぎは自然現象から政界へ飛び火。目の前の参議院選挙対応で「新党」の旗揚げ、候補者に野球選手や落語家を担ぎ出して浮動票を狙う算段しきりとか。
TV人気だけで日本を動かす政治家になれる、可笑しいやおへんか? ソフトバンクの白い犬の方が大タレントでつせ。政治は選ばれた人は殆んど結果責任は取らず、選んだ人(棄権・反対票をいれた人)結果責任は被る。

知ってるさけん(票)入れたげよう。向うは知りマヘンで。そんなん続くと日本が今よりもっと可笑しなりそう。
消費税導入・5%にする時、なんて言うたはりましたか?。社会保障に当てると聞いてマヘンか。
「喉元過ぎると熱さを忘れる」はアカンやん。
「熱ものに懲りてなますをふく」もいけマヘン。
世の中は難しいもんどす。

ヨシちゃんのこと



クイズ100人に

氏が司会
聞きました 進行の

「クイズ100人に聞きました」は1979年(昭54)から約13年間続いた「100人の視聴者参加クイズ番組。会場から「ある・ある・ある！」と声が入るやつ。多分皆さんもご覧になったでしょう。自分の考えと多く人の考えと照合する形でしたから視聴率の高い長寿番組になったのでしょう。



昨年はこちらの超大型盤が実施されました。総選挙です。有権者の選出でダントツ1位は鳩山民主党。「ある」ような「ない」ようなチヨットつかみ難い言葉が続くと選挙の勝利は桶屋が儲けた感じはしますがねえ。

山民民主党。「ある」ような「ない」ようなチヨットつかみ難い言葉が続くと選挙の勝利は桶屋が儲けた感じはしますがねえ。

民意(多数派意見)が常に正しいとは言えません。前の戦争には99%が賛成又は反対をせず(出来ず)大きな犠牲を払う結果の責任を取り(取られ)ました。民主主義でも多数で「選ばれた人」だけが結果責任を問われるのでなく、選ん

だ人々は(棄権した人も)必ず善悪を問わず結果責任を負うことになり。それが民意が重いとされる由縁でしょう。人気投票で無いからムードや風に乗ると危険が自分に降りかかることママあります。

古くから山紫水明の都と言われ、世界遺産一つでカンボジアと泰がその帰属で軍事紛争寸前までなつたその世界遺産が京都に14所もあります。「そつだ・京都市」



多くの人が安らぎを求めて来られます。その人たちの期待に応えるため市民憲章(98年



カラダのための56のよいこと

上は「PHP研究所」から出版している本(単行本定価59円税込) (監修林泰医学博士)。

この本の「はじめに」に書かれている文を見て買って読んでいます。

毎月お届けしている「とんからりん」は編集者の能力不足で皆さまにお役に立つ記事が掲載できてません。この本に56の健康に良いお話が簡潔に平易に述べられているので次号から転載掲載することにします。本は「絵」が豊富に入っています。そこには載せられ

ません。文も省略あり

- (昭31)5/3制定)を持ちました。
- 1. わたくしたち京都市民は、美しいまちをきずきましよう。
- 1. わたくしたち京都市民は、清潔な環境をつくりましよう。
- 1. わたくしたち京都市民は、良い風習をそだてましよう。
- 1. わたくしたち京都市民は、文化財の愛護につとめましよう。
- 1. わたくしたち京都市民は、旅行者を暖かく迎えましよう。

その憲章に抵触しかねない「オリックス製梅小路水族館」公園内立地で議会承認は不要として計画が進んでいます。その説明会でも行政側は「第

三者委員(委員6名)」で設置許可を妥当と答申を受けたと正当性を主張しています。行政側で選んだたった6名の委員答申で「広大な公園用地に水族館設置」を認めて良いと思われませんか。最低でも「市会」で論議し承認・出来ることなら市民投票で賛否を問うべきだと思います。

市民は公園の地主・市長は代理人・議員は市民の代理人ですから民主主義、世間常識でもそれが当然でないでしょうか? 皆さんは管理人に白紙委任状を渡してないでしょうか? 「水族館は百万人に聞くべきだ」とお思いになりませんか。

最初に血糖(ブドウ糖)使用、その後中性脂肪を使います。それに加えて、心肺機能も高まり一石二鳥。夜は最低でも5~6の就寝時間を決める。

就寝前は2~3時間は飲食しないと夜トイレに起きることもなく、逆流性食道炎による胸やけに悩まされることがなくなる。色々な本を読んだり、運動をしたりすると良く眠れるようになる。「はじめる」

言うは易く実行は難しいものですが、幸喜(後期)高齢者の医療費が益々負担が増えそうな時代。自分の体は自分の努力で健康を守りましよう。

次号に続く(編集者)別ページ乾布摩擦タワシ掲載

写真・高瀬川船と並走の京都電気鉄道(市電)



明治3年(1870)より旅客用としても使われ出した高瀬川船は毎日定時に京都(四条小橋・七条小橋)と伏見の間を運行し、また淀川蒸気船と連絡すること京都、大阪を結んでいた。しかし明治28年に開業した路面電車「京電」はやがて伏見と結び、淀川汽船との間に連絡切符を発行するなど、高瀬川の水上交通に強力なライバルとなった。

明治43年(1910)にはもうひとつの電車、京阪電鉄が五条、天満橋間を開通し、京阪間の水上旅客は役割を終えることとなった。資料の写真・文とも京阪電車の記事検索時見た「運河流るる柳原」知られざる高瀬川と崇仁」68年のHP掲載分から借用した。

京都&東山 ぶらりピカリ

22

東山七条 女坂

阿弥陀ケ峰

中腹の「太閤壇」から363段の石段を登ると1598年(慶長3)63歳で没した「豊臣秀吉の墓」が有る。そこへ行くには七条通り東の「どんつき」の智積院北側、何時からか「女坂」と呼ぶ坂を上ります。



京都女子学園の通学路で女子大生が多く歩く坂が名の由縁でしょう。一方智積院南側(瓦坂)

を一時「男坂」と言った時期があります。京都市立美大があり男子生徒が通学していたからです。西京区に移転し時が経つた今は美大生は女性が多く男子は少数だと聞きます。日本男児は何処へ消えたのでしょうか。

この女坂、今は整地され「バス」も通行できる舗装になっていますが、戦後随分長い間、明治(平成初年まで)地道のママ、東山通から東に曲がった所は道路中央は幅広い石の階段で脇に細い坂道が付いている状態でした。

秀吉公没後「太閤壇」に豊臣秀吉を祀る豊国大明神の壮麗な社殿僧坊が造営されましたが、1959年(元和1)徳川家康はそれらを

破壊し、参道に新日吉寺神社を移し墓参を妨ぎました。そのため300余年間参詣する人もなく、社殿は朽ち果てたようです。明治維新で徳川幕府崩壊後、1880年(明治13)新政府の意向で方広寺に現豊国神社が再興されました。更に1887年(明治20)秀吉三百年祭に新日吉神社を縮小させ豊国廟が秀吉と縁の深い蜂須賀、黒田の元大名家の発意で修復され、巨大な五輪石塔が建てられ、参道が整備されました。

その際、新日吉神社は縮小され、『太閤廟』の参道が正面になるよう移転されました。この状況から豊国廟へ至る参道の全てが豊国神社に帰属するようになったとの豊国社の思いと、新日吉神社の方の、豊国廟への参拝通路を空けはしたがその所有権移転していないと主張と

が噛みあわず、便宜上参道中心線で分け長らく両者が管理する形になっていました。所有者が判然としない私有地で舗装や修理、道路交通法の適用も出来ず住民の苦情が続出し結局境界を確定せず、両者が京都市に無償貸与する形で今の「女坂」になりました。この四百年近い昔の原因で争いは女坂入り口の右側に『新日吉神社』左側に『豊国神社』の石柱の形で今も残っているようです。



教訓：相続のマサカを教えた女坂ヨシちゃん

裏千家 桐陰席

女坂を上り、京都女子学園を過ぎ太閤壇に上がる石段下、左の木立の中に竹製の塀と静かな佇まいの門が見えます。私の小中生時代、阿弥陀ケ峰一帯は悪童の「遊び場」で駆け回っていた頃から人が住んでいる

昭和9年頃、豊臣秀吉の遺徳を偲ぶ目的で、京阪神の茶人さん達を中心に「桐陰会」が組織されて、阿弥陀ケ峰の豊公廟下の太閤壇に裏千家今日庵の発起で茶席「桐陰席」は設けられたそうです。

毎月1日・18日に裏千家の後援で月釜がかけられ、春秋2回の大会も催され、4月18日には豊公廟に献茶が行われているとか。そんなことで「桐陰席」には極限られた方が使われて一般の人はあ

り入れないそうです。豊臣家の家紋は「五三の桐」である所から「太閤廟」下の茶席を「桐陰席」と命名されたのだと推測します。この辺りは、時代劇映画の絶好のロケ地です。



が住んでいる気が配が無く変な家だと不思議に思っていました。酒屋をする様になってお酒を届けた事が

1961年東映・宮本武蔵



時代劇と言え、この場所よりも少し京女よりの北に昭和30年頃「中村錦之助邸」がありました。

乾布摩擦の効用

毎朝40分ほど、乾布摩擦と体操。乾燥した皮膚は厚いので、私には元々「面の皮は厚い」方ですがそれでも最初キツクこすり傷ができました。もしされる場合は最初はソロリとなさる方が良いでしょう。効果は「シミ」は消えました。

最初は入浴時身体を洗うナイロンタオルで始めたのですが、チヨット頼りないので「ネット」で乾布摩擦用に「亀の子タワシ」に紐が付いたもの「有ると知り、三条大橋西詰片側の店で2ヶ買いい求め使っています。最近は何処でも売っており、「ご婦人用のやや 柔らかい物もあります。手足の指先から始め、全身を擦ります。勿論顔も首も耳も全部

「乾布摩擦は、シニアにとっても効果的な健康法です。乾布摩擦は風邪予防になる他、冷え性の改善や喘息などのアレルギー疾患の改善にもつながります。乾いた布で皮膚をこする事により、自律神経のバランスが整えられ、免疫力がアップするからです。全身の血行がよくなるため、新陳代謝も促進され、老化予防にもなります。朝起きて着替える前が最適です。」と書いてありました。



ネット【シニアの健康ライフ】乾布摩擦は、シニアにとっても効果的な健康法です。乾布摩擦は風邪予防になる他、冷え性の改善や喘息などのアレルギー疾患の改善にもつながります。乾いた布で皮膚をこする事により、自律神経のバランスが整えられ、免疫力がアップするからです。全身の血行がよくなるため、新陳代謝も促進され、老化予防にもなります。朝起きて着替える前が最適です。」と書いてありました。

お知らせ!

次号から「京阪電車・走り続けて100年」を連載します。記事は「同志社大学鉄道同好会クローバー会」のご協力です。京阪は1910年4月15日開業です。

酒屋で生きて 生かされて

第四十七話

人情・組織

戦後のビール業界

「もはや戦後ではない」と経済白書に書かれたのが1956年(昭31)。戦後増えたキャバレーやバー(業務用)でビール需要が増加、そこへ納入する酒販店も戦前からの付き合いで京阪神では圧倒的に業務用市場は朝日でした。家庭用では「苦くてこくがある」又、前号で記載した三菱系列の努力も重なり朝日地盤の関西で麒麟が増えてきました。そして1953年(昭28)朝日・麒麟・日本(現サッポロ)がビールシェア33%横一線の並び以後1988年(平10)まで44年間麒麟が麦酒シェア一位を占め続けました。戦後の酒類流通は大蔵省免許制度で生産・卸・小売と厳格に区分されていきました。酒谷本店(父店主)は1950年(昭25)卸免許を得てそれまでの小売と飲み屋を廃業、朝日麦酒(株)と特約代理店契約(他社の麦酒は扱えない条件)結びました。大日本麦酒の力を知る京都府内酒卸の7割が朝日・麒麟は3割・日本は1店でした。

抑え、代金決済も25日決済の為替手形を付け出荷する方針を取り続け増えました。そのころ、店は会社(1989年)になり私(ヨシイちゃん)も平社員で参加しました。麒麟が伸び続ける状況の中で1957年(昭32)朝日は戦後最初に市場に投入した本格的な新製品の「アサヒゴールド」(写真)を発売しました。(翌年ビール発売)そのラベルのデザインは煙草「ピース」を手掛けたローウイがした斬新なもの、味も濃くドイツ風の麦酒だと特約店発表会で山本為三郎(初代社長)が述べられ、参加していた私はこの商品なら麒麟に勝て、これに一本化され在来のものは終売と思ったのです。その後「ゴールド」は代金決済と販売方法も麒麟と同ようにするの特約店に指導されました。国民所得が増え、麦酒の需要も増加し、「アルサロ」やキャバレーが大流行時代です。関西では業務用市場は「朝日」圧倒的に強いのですが、今までのバックマージンが無くなり支払いが早い決済に業務用の強い抵抗で、在来のもの(通称ホワイト)も市場に残り、「ゴールド」も市場に残り、「ゴールド」併売になりました。その間にも「麒麟」は着々とシェアを上げていきました。大阪商人的な「ドライ



「アサヒゴールド」(写真)を発売しました。(翌年ビール発売)そのラベルのデザインは煙草「ピース」を手掛けたローウイがした斬新なもの、味も濃くドイツ風の麦酒だと特約店発表会で山本為三郎(初代社長)が述べられ、参加していた私はこの商品なら麒麟に勝て、これに一本化され在来のものは終売と思ったのです。その後「ゴールド」は代金決済と販売方法も麒麟と同ようにするの特約店に指導されました。国民所得が増え、麦酒の需要も増加し、「アルサロ」やキャバレーが大流行時代です。関西では業務用市場は「朝日」圧倒的に強いのですが、今までのバックマージンが無くなり支払いが早い決済に業務用の強い抵抗で、在来のもの(通称ホワイト)も市場に残り、「ゴールド」も市場に残り、「ゴールド」併売になりました。その間にも「麒麟」は着々とシェアを上げていきました。大阪商人的な「ドライ



「アサヒゴールド」(写真)を発売しました。大阪商人的な「ドライ

1967年(昭42)のサントリーマ酒発売時関西の朝日の特約店「ルート」を解放したことにもつながっていたと思います。朝日は麒麟とサントリーマに挟み撃ちされた状態で麦酒シェアが10%に下がりました。人情と組織のどちらに重心をおくかで出た差に思えるのです。その後、住友銀行が社長を送り込み支援をしました。

姉と弟

結びの文募集

「姉と弟」の上級生と下級生の会話を(借用)掲載しました。途中で終わって、家に帰った姉(上級生)が弟(アホな)にどうしたか?どんなことを言ったか?は書かれていません。帰宅した姉と弟の間でどんな「場面や会話」が想像されるのも楽しいではありませんか?

染色作家の 伊砂利彦先生

いさとしひこを悼む

伊砂先生は、京都市左京区にお住みだった染色家です。

沖縄県立芸術大名誉教授。1933年に新匠会に初入選し、音楽や海などをテーマに幅広い作品を制作される80年にはフランス政府芸術文化勲章シュバリ工を受けられた。その伊砂先生が肺ガンのため3月15日85歳でお亡くなりになった。

伊砂先生は永年「鴨川を美しくする会」にご協力されていた縁で現在京都酒造組合の共同銘柄純米酒「美しい鴨川」のラベル

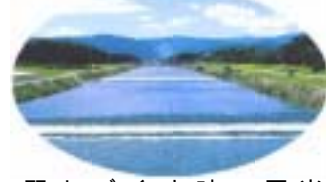
童心の会 代表金沢ひろあき
本紙に、よくご投稿くださる金沢様から「会」の「2010年記念誌」を頂戴しました。エッセイ・連句・五七五も季節も自分流という会の特色があふれた冊子です。ギャラリーカフェ「集」に置いてあります。ご自由にお読みください。

会員の皆さんにも、幼き頃に戻った(上級生の姉だった)つもりでお考え頂き「ご投稿」してください。【ドアを開けた】続きを、皆さんに想像してもらい、極短文で結構です。メール・ファックスでも結構です。よろしく「とんからりん」はご投稿が少ないので苦労しています。これを機会にご投稿が増えと期待して待っています。

の絵と文字を作成して下さいました。



純米酒美しい鴨川(写真)
このお酒は売上の一部を鴨川美化のために寄付するお酒。



当店階段の所に展示しています。このお酒は常時在庫してお引き立てさせていただきます。ご冥福を祈りすると共によろしくお願ひします。

編集後記

人間誰しも

何かしなげればとか、期待されていると思うと、それがバネになってコトが進むものです。この「とんからりん」もつくるのが面倒になって何度も廃刊しようと思いつながら、平成7年(1995)4月第1号から今128号になりました。最初は編集者も参加していた「お酒の共和国」というグループの宣伝紙のつもりでスタートしたのです。当時は2ヶ月1度発行でした。その15年の間、グループ解散や編集者の病氣、コンビニ競合で何度か途切れましたが集西楽サカタニ以後は月一発行です。根がオッチョコチョイ。人に頼めば済むことも自分でやらんと気がすまない悪い性格。「とんからりん」も今までそれでやっただけです。その上おだてに乗りやすい性格で極たまに「読みました」と言われると勝手に義務を背負った気で続けてきたのですが、ヤツパリ歳には勝てません。会員読者の方にお手伝いを頼まないと駄目な気分になりました。皆さまの参加型「とんからりん」にしたい。そんなおもいで「姉と弟」結び文募集をしました。是非年寄りの願ひにご協力ください。